

「保健医療福祉政策プログラム」 を開始します（履修証明プログラム）

埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科

趣旨

少子高齢化が進み、財政制約が強まる中で、自治体や保健医療福祉の関係機関では、地域の実情の把握、医療費・介護費の分析等を適切に行い、医療・介護保険の安定的運営や地域包括ケアシステムの構築といった課題に効果的・効率的に取り組んでいくことが求められています。

このためには、保健医療福祉の計画や事業の企画立案に必要とされる実践的な理論、知識、手法等を修得した人材を育成することが必要です。

そこで、本学大学院では、2025年度から、県内の自治体、保健医療福祉の関係機関等を支援する観点から、それらの職員等を対象とする履修証明プログラムを開始します。



対象者

保健医療福祉の政策・事業の立案や実務に従事している者又は今後従事しようと考えている者（10名程度）

（例）都道府県・市町村関係者（行政・国保保健師、一般行政職、福祉職、栄養士、薬剤師等）・医療保険者・医療機関・福祉事業所・企業等の職員

手続・費用

出願期間：2025年1月

出願書類：受講願書、履歴書、
受講理由書等

選考方法：書類審査

受講料等：10万円程度※

※受講料等の内訳

①入学検定料 9,800円 ②入学金 県内居住者 21,100円、県外居住者 42,300円 ③受講料 1単位につき7,000円（5科目10単位以上履修）

保健医療福祉政策プログラムの内容

- ① 2年以内に5科目(150時間)以上を履修
- ② 修了者には、学長名の履修証明書を交付
- ③ 授業は、原則として、7限(19:40～21:10)にオンライン(遠隔)で実施

保健医療福祉の政策立案の現場で直面するこのような課題に対応します

- どういう点に注意して住民調査を行ったらよいか知りたい。
- 統計分析の方法や結果の解釈の仕方が難しい。
- データヘルスにどのように取り組んだらいいかわからない。
- 事業計画の評価をどのように示したらよいか迷っている。
- 地域づくりを進めていくためのポイントを学びたい。
- 他の自治体の取組事例を知りたい。

プログラムの構成科目(予定)

科目	授業内容
健康福祉社会調査論	社会調査の方法
定性的研究法	定性的分析を行うための調査及び質的分析法
統計分析法	統計分析の考え方と手法
データヘルス特論	実践例を含め、保健医療のビッグデータの利活用の方法と課題を学ぶ。 ①データヘルスの概要 ②自治体での保健・医療・介護データの活用 ③医療データの活用 ④健康経営におけるデータの活用
政策評価論	実践例を含め、公共政策の立案と評価の方法を学ぶ。 ①政策評価の意義・制度 ②政策立案・計画策定の方法・プロセス ③評価の方法(ロジックモデル、プロセス評価、アウトカム評価等) ④政策評価の実践例(母子保健、成人保健、高齢者保健福祉)
地域包括ケアシステム論	地域包括ケアシステムに関する理論、サービス提供体制、自治体の責務と評価、情報連携の方法等を学ぶ。
地域課題研究(必修)	受講者が教員の助言を受け、勤務地、組織等の現状の把握や課題解決の方向性等を研究。プログラムの全ての学生・教員が参加し、ワークショップ形式で、受講者が研究結果を発表し、議論。
自由選択科目	大学院博士前期課程の様々な開講科目から選択することができる。

(注)

1. プログラム履修者は、大学院博士前期課程に正規に入学するのではなく、科目等履修生となります。
2. プログラムの構成科目は、博士前期課程の正規科目であり、履修した科目については、プログラム参加者が大学院に正規入学した場合、単位として認定されます。
3. 今後、内容が変更になることがあります。

【問い合わせ先】

埼玉県立大学大学院
保健医療福祉学研究所

伊藤善典 ito-yoshinori@spu.ac.jp

北畠義典 kitabatake-yoshinori@spu.ac.jp

教務・入試担当 Tel. 048-973-4117 e-mail kyomu@spu.ac.jp

※出願情報等は本学HPに掲載します。

<https://www.spu.ac.jp/>

埼玉県立大学